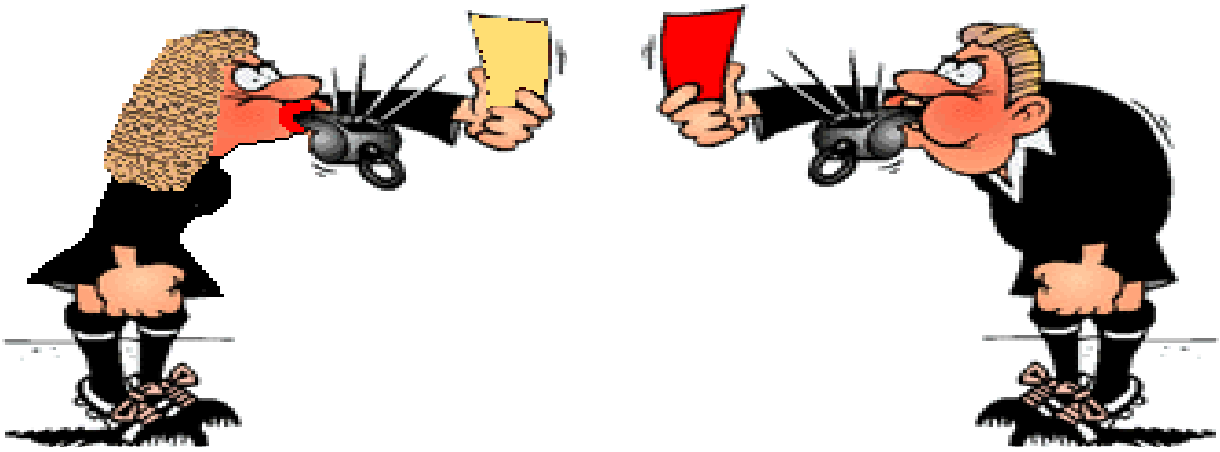
平成２９年度JOCジュニアオリンピックカップ
九州地区予選大会

審判会議資料



平成２９年１０月７日（土）～８日（日）

九州ハンドボール協会
宮崎県ハンドボール協会

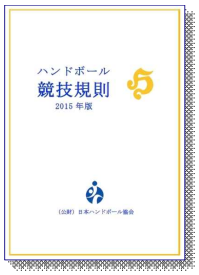
第１部　レフェリーとしての準備・心構え

レフェリーの使命とは…

チーム・プレーヤーに
トレーニングの成果を存分に発揮させる

～コート内と交代地域の秩序を保つ～

使命を果たすために



1　競技規則に関する正しい知識に裏打ちされた判定

○これまでの競技規則改定の流れをつかんでおく

- 2010 年競技規則改正
- 2011 年競技規則の解釈に関する通達
- 2011 年競技規則の解釈に関する通達　2012 年改訂版
- **2016年競技規則改正**
  「競技規則運用に関するガイドライン」の新設
  ・・・・これまでの通達の整理

目　的

- ☆ **シンプルに分かりやすく**
- ☆ **進歩する技術・戦術に適応した**
- ☆ **多くの判断基準/事例を示す**

『コート上では攻撃側も防御側も
同等の可能性と権利を有している』

～攻撃有利の展開になってはいないか？？？～

＜改正のポイント＞

罰則の適用　　攻撃側の違反　　７ｍ スローの判定　　アドバンテージルール

パッシブプレー　ウイングポジションでの攻防　　ピボットポジションでの攻防

2　ラフプレーとスポーツマンシップに反する行為を排除する

ハンドボールの競技規則の精神は，相手の身体を傷つけることなく，
チームに本来のプレーを行う正当なチャンスを与えることである。

レフェリーハンドブック 2015『ハンドボールの概念』から抜粋

○競技規則は罰するためにあるのではなく，ハンドボールがハンドボールであるために存在する。

○ RC はハンドボールがスポーツであるための生命線。　失格に値する行為に対してレフェリーが RC を出すのをためらえば，ハンドボールはスポーツではなくなってしまう。
しかし…

3　妥当性と信頼性のある判定

○それぞれのカテゴリーに相応しい競技運営を心掛ける。
○レフェリーとしての基本事項の励行。
○求められている物を知り，それを発揮する。

○それぞれのカテゴリーに相応しい競技運営を心掛ける。

小学生には小学生の…
中学生には中学生の…
トップリーグにはトップリーグの…
それぞれの目線に立った競技運営を

・・・「教育的配慮」という名のもとに、ルールを変えてはいけない
・・・「教育的配慮」はどこまでか

＜ゲームをコントロール？？？＞

- **後半になってリードを広げると必ず退場や７ｍを取られる。**
- **流れをつかむとレフェリーが介入してくる。**
- **レフェリーのために試合をやってるんじゃないぞ。**
- **あんな笛吹かれたら中学生がかわいそう。**
- **それは中東の笛か！観ていて不愉快！**

「監督・コーチ・観客・大会関係者の声」

○　レフェリーとしての基本事項の励行

役割分担，領域分担
正しいジェスチャー
チームタイムアウト中の位置　など

決められた時間内の得点を争う競技の特性上，
『時間の管理』と『得点の管理』は厳密に行う。
疑義があるときには，競技時間を中断し確認を行う。

○求められている物を知り，それを発揮する。

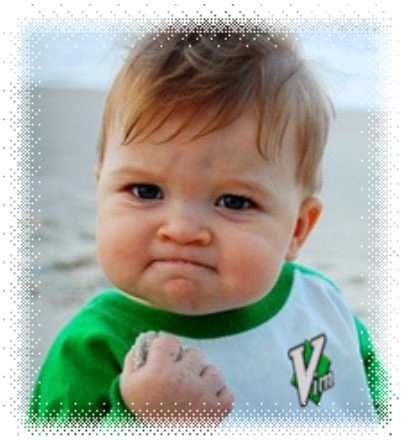
- **ゲームの流れを組み、それに協力することがレフェリーの役割**
- **流れを作るのが、決してレフェリーであってはならない**

4　心身ともにコンディションを整える

リラックスと集中をうまく使い分けて，各自最良のコンディションで臨む。

＜リラックス＞

＜集中＞

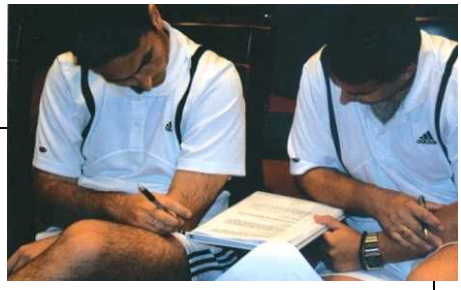


上記の４つの項目が、大会・試合の中で実践されるためには・・・・

「レフェリーとしての準備」が不可欠

「レフェリーとしての準備」とは・・・・

1　レフェリングに関する準備



○審判法の理解（試合前の任務、試合中の任務、試合後の任務）
○競技規則の理解（選手・チーム役員に超えられてはならない）
○試合における共同作業（オフィシャル、TD、大会役員、補助員、モップ　等）

2　身体的準備

○レフェリーも選手と同様、「アスリート」である
○大会に向けて体調の調整も必要

3　精神的準備

○いざ試合になれば、経験が豊富だろうが、浅かろうが、国際級だろうが D 級だろうが関係なく「レフェリー」として存在する
○大会までの上記「レフェリングに関する準備」「身体的準備」が、精神的余裕につながる

4　大会当日･大会期間

○競技運営方法の確認
・競技時間　延長　登録選手　選手の確認方法　選手入場　使用球　コート　ゴール　タイマー　終了合図　退場タイマー　負傷者カード　・・・・
・大会ごとに異なるので、その都度確認を
○ペアでの確認
・役割分担　通信機器の使用方法
○試合後の反省
・ペア間で　　レフェリー間で　　審判責任者と

5　直前の準備（本年度、すべての大会、すべての試合で実行してほしい）

直前の準備　（今年度からすべての大会，すべての試合で実行）

試合前のウォーミングアップを入念に行う

最良のコンディションで臨むための，
最後のチャンス

レフェリーの本気度をアピールするための，
最高のチャンス

トスの後，プレーヤーと共にコート上で

22/37

直前の準備　（今年度からすべての大会，すべての試合で実行）

オフィシャル席との打ち合わせ

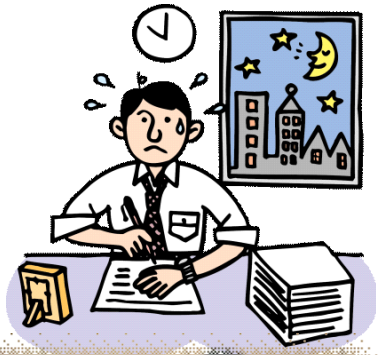
レフェリーは，オフィシャル席と密接な連携を保たなければならない。

各種合図の相互確認の方法はもちろんのこと，交代地域規定の遵守についてもオフィシャル席に協力を依頼する。

トラブルを未然に防ぐことにも繋がる。

23/37

最後に



1　様々な大会で多くのゲームをレフェリングすれば，必ず吹き損じや失敗がある。

　しかし，その失敗に対して「いつもは一緒に吹いていないから」，「仕事が忙しくて準備不足だから」というのは言い訳にならず，チームやプレーヤーは常に厳しいトレーニングを積んでいることを決して忘れてはならない。

2　レフェリーは常に周囲から注目されていることに気づいていますか？

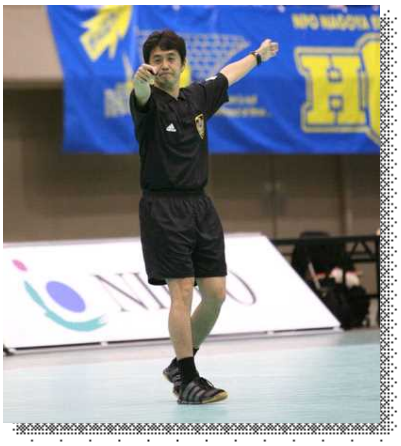
強豪同士の対戦

著名な指導者

注目の対戦カード

誰が吹くの？

ゲーム展開



特に，笛を鳴らしたとき，競技が中断しているときには，
すべての人の視線がレフェリーに注がれる。
キャリアを積めば積むほどその注目度は高まる。

3　レフェリーは，それぞれの 『個性』や『ハンドボール観』を持っている。

　しかし，それらは競技規則およびレフェリングに関する指導の内容から外れないように表現されなければならない。さらには，レフェリーの個性やハンドボール観ばかりが先行する主観ではなく，**妥当性**・**信頼性**のある判定や競技運営をしなければならない。

Players First!

4　競技の担当が決まれば，たとえそれが都道府県大会であっても，全日本大会であっても，小学生であっても，社会人・日本リーグであっても，大会に向けてレフェリーとしての準備を怠ることなく…

大会期間になったら，会場入りしたら，あるいはコートに立ったら，レフェリーとしてのプロ意識を持ち，始めから終わりまで丁寧かつ誠実に取り組み，大会を取り巻くすべての人に，「そのとお り！」「それが正しい！」と言わせるような判定や，競技運営はもちろんのこと，レフェリーとして相応しい行動や言動を心掛けることのできるレフェリーであり，すべてのレフェリーの良き手本となるよう期待します。

5　行動模範について

行動規範について

競技場の内外を問わず，常にレフェリーは注目されていることを忘れず，
上級レフェリーに相応しい言動・行動を心掛ける。

具体的には，

- 競技会場(コートも含む)では決して目立たず，しかし，コート上では美しく
- 試合を観るときには一ヶ所で（判定に対して反応しない）
- チームとの接触は極力避け，所属する都道府県のチームであっても，応援などは慎む

レフェリーは，あくまでも中立な立場，立ち位置

31/37

行動規範について

コート内外でチーム役員やプレーヤーが，著しくあるいは極めてスポーツマンシップに反する行為を行えば，レッドカードが与えられる。

競技会場外であっても，レフェリーが社会人としてあまりにも恥ずべき行為を行えば？，
社会からレッドカードを突き付けられることになる！

32/37

☆ご一読ありがとうございました。ご多忙中にもかかわらず大会への参加に感謝いたします。大会に向けての準備をよろしくお願いします。

２０１７年度の競技規則書が日本協会 HP に掲載されています。内容を確認の上、特に「競技規則変更に関するガイドライン」については熟読、理解をお願いします。

大会においては、競技委員長の指導・指示の元で大会審判団として任務を遂行します。地元役員の協力なしには遂行できませんので、ご理解のほどよろしくお願いします。

本年度より、九州ブロック審判長を仰せつかりました。過去の先輩方の思いを大切に、九州より全国で活躍できるチーム、レフェリーの育成に努めていければと思っています。時代の流れを十分に活用し、審判会議の資料についても事前にデータで送信させていただくことによって、地元協会審判長の負担軽減、レフェリーの準備およびレフェリー仲間との共有が図れればと思っています。様々な場面で十分に活用されてください。

この資料は、プリントアウトまたはタブレット等にダウンロードいただき、大会への持参をお願いします。

今後、ご意見、ご質問等ありましたら、遠慮なく下記連絡先をご利用ください。可能な限り対応させていただきます。

九州ブロック審判長
福島亮一　（公財）日本ハンドボール協会審判委員会
競技規則研究委員会・審判指導委員会
TEL　090-9595-3978　携帯 mail　futkun-1212-@ezweb.ne.jp
E-mail　futkun1212jp@yahoo.co.jp

第2部　審判技術の向上に関して　　各種大会の反省を踏まえて

●平成 29 年度の審判員の目標と各級別の目標（A 級・B 級）を理解し、実践すること。
特にステップ管理については、身体接触の有無、ドリブル後等、正しく観察し判定することを心がける。

1．TDとともに、両チームプレーヤーのユニフォームの確認。チームユニフォームが決定したら、担当レフェリーは、別色のレフェリーユニフォームでゲームに臨むこと。チームのアップの時から身につけているものには関心を持ち、試合直前になって脱がせたり、外させたりすることがないようにする。ユニフォームの色が重複した場合は、プログラム番号若番のチームに優先権あり。プレーヤーがアンダーパンツ、アンダーシャツを着用する際は、（公財）日本ハンドボール協会競技運営部の関係事項を順守すること。

2．ゲームの流れを止めない

レフェリーの独りよがりの判断によって、ゲームを中断させないこと。フリースローの判定の後、レフェリーがポイントに移動する間に正しい位置からスローが実施されたにもかかわらずやり直しをさせたり、相手チームに不利にならない状況でわずかなポイントのずれを修正したり、スローの準備が完了している状況下でメモをとっていたり等。不正な位置ではあるが、相手チームが不利に（自チームが有利に）ならない状況下で、わずかな位置修正を要する部分はゲームの流れを優先させて良い。レフェリーはなるべく笛の数を減らすことに重きを置いてほしい。

3．フリースローを判定した際は、先ずは方向指示が最優先。その際違反したプレーヤーに視線を送る。その後ジェスチャーで何の反則かを明らかにする。身体接触での防御側の反則で、通常のフリースローのみの反則であれば方向指示だけで充分。押す、掴む等のジェスチャーは、微妙な場合を含め、必要最小限に留めること。ボール展開でない所での反則でフリースローを判定する際は、方向指示後のジェスチャーは状況に応じて有効となる。また、**7mスローや罰則を判定した場合は、違反を起こしたプレーヤーまたは周囲に対し、何の違反であったのか大きく1回ジェスチャーをする。**

4．**ターンオーバー（オーバーステップ、チャージング、ダブルドリブル等）のフリースローの方向指示後、CR（GRへ移行する際）はボールから目を離してはいけない。2次的反則（ボールを置かない、3Mの距離違反等）が発生する可能性があるため**注意深く観察すること。これは、競技終了30秒間では大切な要素となる。

5．ハンドボールレフェリーは、笛は、常に手に持ち笛を口にくわえたままの行動は好ましくない（してはならない）。「笛を手にして観察すること」「必要時には沈着冷静に口に運ぶ習慣」は、ハンドボール世界共通の不文律である。

6．**8 条 3・4・5・6 項には特に留意すること。段階的罰則、一発退場、失格を判定する際には、 4 つの項目を常に念頭において判断すること。**①程度、②影響、③部位、④位置を考慮の上、判断すること。これらの判断基準をもとに機械的に処理する。違反があったが、違反を受けた選手への影響がなかった場合は、罰則の適用は不要。また逆に軽微な違反であっても、違反を受けた選手への影響が大きかった場合は罰則の適用が必要となる。

試合開始直後、また後半残り15分、また終了直前など、時間帯に応じた判定も考慮すべきであり、特に後半での警告、イエローカードの判定はチームからの不信感を生むことになりかねない。後半に罰則を適用しなくて済むよう、**前半に基準を明確に示すこと**が大切。

7. CRの後ろには攻撃チームのGKだけおくこと。つまり、常に、CRの前にプレーヤーをおき観察することである。特殊な防御形態（マンツーマン、3－3、3－2－1防御等）における任務分担をペア間で確認し、退場者が出た場合や、チームタイムアウトの直後に起こりうることを想定しておくとよい。

また、段階罰、アドバンテージの判定など、レフェリーの課題の多くに起因する原因は位置取りと考えられる。**正しい判定は正しい位置取り、正しく見るという行為**から生まれる。しっかり動くことと合わせて戦術に合わせた良い位置取りを心がけること。いい位置を求めて動くことは大切であるが、プレーヤーがシュートモーションに入った時等は止まってから観察すると精度が高くなる（Stop and See）。役割分担で、GRはシュートにおける最終場面だけを見てではなく、**それまでの過程をみてから判断を下す**こと。低めのボールを体勢を低くしてキャッチしたピボットプレーヤーが体を起こしてシュートを試みた際、近くにいて立ち止まっていたDFプレーヤーと接触した。この場合は、最後の局面が接触の場面であっても過程からして違反行為ではない。「GRはボールを追うな！」はこのことからつながる。

8. 得点後のスローオフの際、スローオフするプレーヤー以外のプレーヤーが笛の合図より先に相手コートに侵入していないか注意深く観察すること（クイックスタートの観察ができる動作、基準を明確にすること）。不正な位置であるため、スローオフを許可できないケースがあった場合、スローオフの笛を吹かないことによってそのことを知らせることもできるが、笛があったと勘違いしてプレーが継続され、プレーヤー同士の衝突等が起こる場合もある。レフェリーは他の各種スローと同様に不正な位置に気づいた場合は笛（スローオフとは異なる連呼等）で知らせることも、状況によっては必要であることを理解しておく。

9. 得点、警告や退場を判定した際、記録席と充分な連携をとるように（警告、退場の選手の番号の確認、退場タイマーの入力確認）。また、特に得点の入力には十分な注意を払うこと。**試合開始前に記録席の担当者と細かい打ち合わせや、機器の動作の確認を必ず行う**こと。

10. 警告、退場、失格などの判定をした際には、判定を下したレフェリーの**もう一方のレフェリー**は、記録席とのコンタクトのほか、他の選手など全員を観察しておくこと。二人同時に罰則を下さない。また、失格を判定した際には、当該選手をTDと連携して、競技場から出ていくまでを観察しておくこと。交代地域規程など、TDと協力して運用すること。一方のレフェリーに対しチーム役員が激しく抗議した場合、**もう一方のレフェリーより**罰則を与えることも可能（その方が、感情論にはならない）。

11. ゲームはレフェリーがリードする

立ち上がりの判定（基準）、ポイント、スロー、ジェスチャーを丁寧に、なぜ吹いたのか、何の反則なのかを明確にする。笛を吹いた後は、必ずポイント付近へ向かい、そこで各種スローのリードをする。選手が転倒した際は必ずその付近まで向かい、床の状況なども確認する。ボールの交換等選手に勝手にさせない。試合前の整列、選手の服装の確認や、チームタイムアウトの後の再開までを含め、レフェリーが主導権を握るつもりで。

12. 2016年度から施行されている新ルールへの対応（再確認）

① ゴールキーパーとコートプレーヤーの交代

コート上に 7 名のコートプレーヤーがいる場合に、誰もGKの役割を担えない。その時に起こりうる明らかな得点チャンスを妨害した場合の 7m スローの判定に注意が必要。**GKなしの攻撃が始まったら、レフェリーはその後、決して交代する選手の邪魔にならないように戻り方を考える。フリースローやスローインの中断等に合わせて、ゴールレフェリーがゴールの後ろを通るなどして、コートレフェリーが交代地域側に位置取らないようにする。**

② 選手が負傷した場合

ユースの試合の場合、「負傷救済のためコートに２名を入れた後の３回の攻撃参加ができないこと」が適用されないだけであり、選手が負傷した場合の考え方は変わらない。レフェリーはまず負傷した（と思われる）選手に続けられるかの問いかけを行い、それが難しい場合は、救済（コート外で治療を行わせる）のため２名の入場を許可する。

③ パッシブプレー

予告合図から攻撃は最大 6 回までのパス、シュートが認められるが、あくまでも最大であり、6 回になる前に判定することもある。また、継続すること。6 回目でのフリースローなどの処置に留意する。

④ 終了間際（競技終了 30 秒前と定める）

競技規則 8:10（ c,d ）に示される違反行為について、再開の方法は相手に 7m スローを与える。

⑤ ブルーカード

両レフェリーで協議の後、合意した上で提示する。

［最後に］

「チームは、16名の選手と4名のチーム役員で構成され両チームあわせると40名。観衆もそれぞれの思い思いの視点で観戦する。当然、大会を運営するスタッフも大勢存在する。ゲームが開始され、レフェリーの判定（笛・方向指示等）に注目する状況が繰り返される。2つのチームがあり、観衆という膨大なチームがあり、運営者のチームがある中で、たった二人のレフェリーがコートでパフォーマンスを展開する。色々な立場をチームと言い換えたが、**レフェリーは二人で一つのチーム（且つ平等であり、コート上では年齢差、職業、役職などは排除しなければならい）**である故、ペアとしてのチームワークが重要である。レフェリーは、小さな巨人となれ！！」

また、審判団もひとつのチームである。一人のミスは全員のミス。担当以外の試合も観察し、良い所を褒め、良くなかったところを指摘し、励ましていきましょう。この大会でさらにレフェリングが向上することを願っています。